
自分

柳真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自分

【著者名】

柳真

【Zコード】

N3277F

【あらすじ】

好きな自分嫌いな自分、その簡単な成り行きと連鎖。何か少しは通じるものはあるかと思います。

いつからだらう？

人との距離を縮めるのが恐く感じだしたのは。

別に人が嫌いなわけじゃない。

そこまで人と話すのが苦手なわけでもない。
死ぬほど嫌な思い出があるわけでもない。

なぜだらう？

幼稚園や小学生の時、自分で言つのもなんだけど中々の人気者だったと思ひ。

幼稚園での演劇では主役ではないが敵海賊の船長。

かけっこでは誰にも負けなかつた。

先生や保護者の人達にも少なからず嫌われていなかつただろう。

小学生の時もスポーツは何でもある程度できたし高学年になればそこそこ人気はあつた。

トモダチともよく遊んでいて両親にも今思つと大事に育てられ不自由はしていなかつた。

自分で言つのはなんだが、俺は恵まれていた。

俺は

「枠」というのが得意だつたんだと思う。

学校という枠。
クラスという枠。
部活という枠。
地域という枠。

枠の中なら別に自分が動かなくとも周りに人はいる。

ある程度普通で、ある程度普通じゃなければトモダチはできるし出会いがあつた。

多分初めて

「枠」を嫌つたのは高校生になつてからだつ。

部活の人間が嫌いだつた。

陰口が多く群がらないと何もできない。

俺は腹黒かつたとは思うがB型特有の正義感があった。

うまくはやつっていたけど、案の定力があつてもチームワークがないチームがそこまで強くなるわけがなく中途半端だった。

俺はクラスが好きだった。

枠を嫌い、枠を好んだ。

居心地がよくて楽しかった。

結局、俺は自分が嫌いで好きなんだろう。

自分が嫌いな事、それは自分がしている事なんだろう。

よく思う事。

こいつ嫌いだつて思う人、自分に似てる。

ただ考え方が違つて嫌いなだけ。

多分二コアンスを変えたら似てるんだろうな。

そう思つと自己嫌悪に陥つてしまつ。

ただ、自己嫌悪に陥つている自分が嫌いじゃない。

気持ちが落ちるつていう感情が好きなんだろう。

自分が嫌いで、自分を嫌う自分が好き。

この連鎖から抜けられない自分がいて嫌い。

そんな自分は

嫌いじゃない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3277f/>

自分

2011年1月26日06時31分発行